

同友しずおか10

「入ってよかった」「続けてよかった」「企業も地域もよくなった!」

「互いに支えあい、励ましあい、助けあおう」
私たちは地域にあってよかったと言われる同友会であり続けます



台風15号 静岡県内を直撃

私たちは負けない！互いに支えあい、励ましあい、援 けあい、自社を存続させ、この難局を乗り越えよう



9月24日(土)早朝の清水区の状況(会員提供)

9月23日(金)から24日(土)の未明にかけて静岡県内に大きな被害をもたらした台風15号により罹災された皆様には心よりお見舞い申し上げます。
被害は県内全域に亘り、道路の通行止めや停電、断水などが発生。人的被害は死者2名、行方不明者1名、軽傷者6名、物的被害では住家の全壊5棟、半壊7棟、一部損壊78名、床上浸水2180棟、床下浸水3663棟などの被害でした(10月3日時点・静岡県発表)。特に中部から西部にかけて、床上・床下浸水の被害が多く、被害件数が100棟を超える地域が7市に上りました。

静岡同友会では、24日(土)から被害状況の把握にむけて、県理事LIN Eグループ、支部長や支部役員からの連絡、支部LINEグループ、EID oyuなども活用しながら、情報提供を発信。停電、浸水(1m半~2mの箇所も)、断水、道路決壊、橋の決壊、冠水、土砂崩れ、土砂流入、竜巻による破損、自家用車・社用車の水没、雨漏り、商品水没など、大きな被害に亘っています。特に浸水と断水の影響は大きく、静岡市清水区(会員約100社)では広域で断水が発生。地域差はあるものの完全復旧までに一週間以上要している地域もあり、日常生活に大きな支障を生じました。

26日(月)には、緊急正副代表理事会、翌27日(火)には「互いに支えあい、励ましあい、援けあう」の想いを込め、すべての会員にむけて代表理事談話を発表しました。

当会静岡支部では、26日(月)夜に静岡支部役員会を実施し、清水地域の静岡市清水区(由比・蒲原地区を除く)では、取水口の被災により24日(土)から長期に亘る断水が発生。最大6万3000戸で断水となりました。一番早く復旧した地域でも28日(水)と断水発生から4日目でした。

台風一過から3日目の27日(火)~29日(木)にかけて、全会員にむけて飲料水やポリタンク等、不足している物資支援を緊急要請することを決定。翌日から会員企業の敷地を支援会場の拠点として設置。呼び掛けたその日から、飲料水や衛生用品、清掃用品等がぞくぞくと集まりました。3日間



各支部より多くの物資とエールが届く

資をご提供頂いた皆様、現地まで届けて頂いた皆様、ご自身の会社・自宅が被災された中、たくさんの方の会員のもとに物資を配ってくださった皆様に、心より御礼申し上げます。また、物資支援にあたり、会員の皆様だけでなく、日本政策金融公庫静岡支店様からも飲料水をはじめ無償提供いただきましたことをご報告させていただきます。また、御礼申し上げます。

集まった多くの物資は、静岡支部会員を中心に、支援会場にいられた会員に配布したり、会場に来ることができない方へ配送したりしました。受け取った会員からは「本当に同友会に入っ

て通して、飲料水(200ケース以上)、ポリタンク(500個以上)、タオル類、使い捨て食器類、マスク、バケツ、簡易トイレ(200個以上)、ウェットティッシュ、消毒類などが集まりました。支援物資



飲料水などの物資を運ぶ静岡支部会員

「同友会がとてもうれしかった」「同友会の動きが早かった」との声も。3日間が過ぎ、同友会としての今後の防災対策に繋がる成果と教訓にもなりました。

静岡県庁、各市町行政、県内金融機関、商工会議所等からは、台風15号で罹災された方々にむけた各支援が発信されています。同友会で発行している復旧・復興ニュース第4号(9月30日) eidoyu掲載板より発信)には支援制度が掲載されています。ぜひご覧ください。

今回の災害では、仲間との支えあいが復旧への原動力になっているとの声も寄せられ、企業存続には、周囲の人や地域との繋がりが欠かせないことが改めて窺えました。

各地域においても、依然として復旧・復興に取り組んでいる会員の方々が多くおられることと思います。企業の存続、地域の存続のために、同友会があつてよかったと言われる団体であり続けるべく、互いに支えあい、励ましあい、援けあい、この難局を乗り越えていきましょう。

■すべての会員の皆様、県内地域で台風被害を受けた企業の皆様へ！何か必要なもの、支援できることはありませんか？同友会のネットワーク、支店とも連携して少しでもお役に立てるよう努めていきます。同友会事務局までご連絡ください。



■会員の皆様
下記のQRコードより、eidoyuにアクセスし、各支援策の掲載ページをご覧ください。

互いに支えあい、励ましあい、援けあう

代表理事談話を発表 すべての会員の皆様へ

9/23(金)から24(土)にかけて県内各地を襲った台風15号の影響が今もなお続いています。県内の広い地域で被害が及び、その復旧に昼夜対応している会員も多くおられます。被災に遭われた皆様には心よりお見舞い申し上げます。すべての会員は、地域、企業規模、入会歴に関わらず、同じ中小企業家の仲間です。互いに支えあい、励ましあい、援けあう温かな気持ちで繋がっています。それが中小企業家同友会の本質とも言えます。まずは自社の存続に共に奮闘し、この難局を必ず乗り越えましょう。随時情報収集に努め、県理事会、各支部と連携して会員の皆様と併走してまいります。

清水地域会員にむけて 支援の輪スタート

今日9/27(水)の朝に全会員に「支援物資の募集」連絡を入れたところ、正午前からぞくぞくと県内各支部、会員から物資が届き始めました。拠点場所を提供いただいた森下昌治さん(静岡支部)ありがとうございます。9/28(水)と29(木)の毎日10:00~16:00の間に、物資の搬入と配給を行います。物資拠点：(株)森下商店(静岡支部会員) 静岡市葵区瀬名川3-27-10 ※駐車場あり搬入可

「互いに支えあい、励ましあい、援けあう」皆で乗り越えましょう！
支援物資と温かな気持ちがたくさん届いています！上記の時間帯に、会員皆様は受け取りにお越しください。



ご支援ありがとうございます。紹介できなかった皆様すみません。
9/28(水)と29(木)もたくさんの支援物資が順次、到着予定です！

県内地域で被害を受けた企業の皆様へ

何か必要なもの、支援できることはありませんか？ 同友会事務局までご連絡ください。同友会のネットワーク、支部とも連携して少しでもお役に立てよう努めていきます。まずはご連絡ください。TEL:054-253-6130 FAX:054-255-7620 メール: doyu@szcdoyu.gr.jp

作成：静岡県中小企業家同友会 事務局長 秋山

【代表理事談話】

2022年9月27日(火)発信

互いに支えあい、励ましあい、援けあう

9/23(金)から24(土)にかけて県内各地を襲った台風15号の影響が今もなお続いています。県内の広い地域で被害が及び、その復旧に昼夜対応している会員も多くおられます。被災に遭われた皆様には心よりお見舞い申し上げます。すべての会員は、地域、企業規模、入会歴に関わらず、同じ中小企業家の仲間です。

互いに支えあい、励ましあい、援けあう温かな気持ちで繋がっています。それが中小企業家同友会の本質とも言えます。まずは自社の存続に共に奮闘し、この難局を必ず乗り越えましょう。随時情報収集に努め、県理事会、各支部と連携して会員の皆様と併走してまいります。

静岡県中小企業家同友会

代表理事 井上 斉

義 威頼

松葉秀介

互いに支えあい、励ましあい、援けあう

すべての会員の皆様 県内地域で台風被害を受けた企業の皆様へ

何か必要なもの、支援できることはありませんか？ 同友会事務局までご連絡ください。同友会のネットワーク、支部とも連携して少しでもお役に立てよう努めていきます。まずはご連絡ください。TEL:054-253-6130 FAX:054-255-7620 メール: doyu@szcdoyu.gr.jp

静岡・清水 9/29 支援物資最終日 今日支援の輪が広がる

一日でも早い復旧にむけて、支えあい、励ましあい、奮闘する会員企業にエールを送る
配布最終日の今日9/29(木)は向とか雫の影響も少なく、静岡支部役員・会員にて、一日も早い復旧・復興を願い、皆様から届いた支援物資をお渡しました。支援物資を受け取った会員からは「同友会に入っていてよかった」「本当にありがとうございます」「復旧にむけて取り組みます」「社員も感謝しています」と、お言葉がたくさん返っています。支援物資をご提供頂いた皆様、現地まで届けて頂いた皆様、ご自身の会社・自宅が断水の中、たくさんの方の会員のともに物資を配ってくださった皆様に、心より御礼申し上げます。また、物資支援にあたり、会員の皆様だけでなく、日本政策金融公庫静岡支店様からも飲料水をはじめ無償提供いただきましたことをこの場を借りて御礼申し上げます。ありがとうございます。



3日間ご支援ありがとうございました。本紙で紹介できなかった皆様も本当にありがとうございます。

早期の復旧、そして復興にむけて

行政支援、金融機関支援、他団体の支援など、適宜情報を発信していきます。発信はe.doyu 掲示板などにて行います。

作成：静岡県中小企業家同友会 事務局長 秋山

互いに支えあい、励ましあい、援けあう

配布2日目終了 支援の輪が広がる 各支部・会員から支援物資ぞくぞくと届く

配布2日目の今日9/28(水)も各支部、会員から物資がぞくぞくと届きました。誠にありがとうございます。

29日の配布情報 最終日予定：9/29(木)10:00~16:00

拠点場所：(株)森下商店(静岡支部会員) 静岡市葵区瀬名川3-27-10※駐車場あり
明日も飲料水、ゴミ袋、衛生用品などの提供を見込んでいます。
お時間によっては在庫数に変動がありますのでご容赦ください。
お時間許す限り配布したいと思っておりますので、静岡支部に限らず、お困りの会員がおられましたら、ぜひご活用いただければと思います。よろしくお願いたします。

「互いに支えあい、励ましあい、援けあう」皆で乗り越えましょう！
支援物資と温かな気持ちがたくさん届いています！上記の時間帯に、会員皆様は受け取りにお越しください。



ご支援ありがとうございました。ここで紹介できなかった皆様も本当にありがとうございます。29(木)もたくさんの支援物資が順次、到着予定です！

県内地域で被害を受けた企業の皆様へ

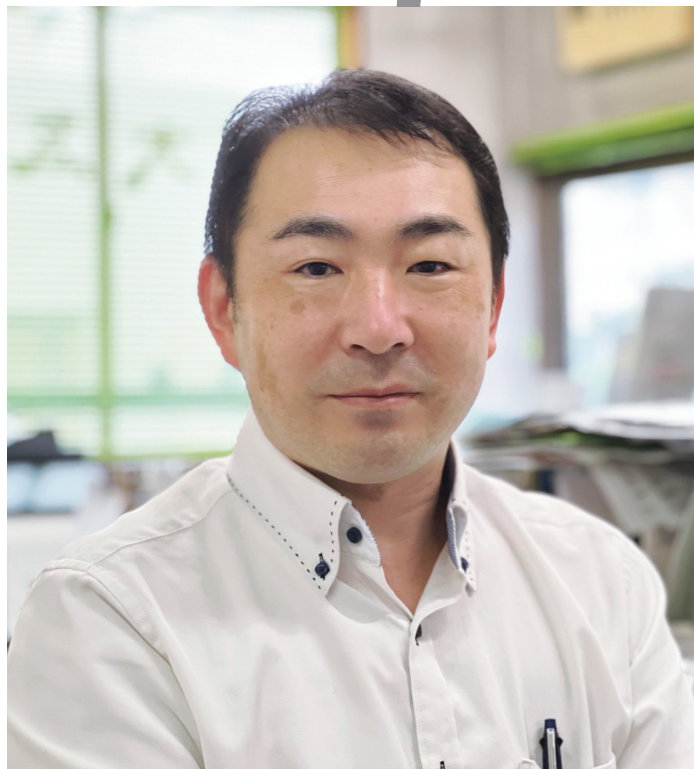
何か必要なもの、支援できることはありませんか？ 同友会事務局までご連絡ください。同友会のネットワーク、支部とも連携して少しでもお役に立てよう努めていきます。まずはご連絡ください。TEL:054-253-6130 FAX:054-255-7620 メール: doyu@szcdoyu.gr.jp

作成：静岡県中小企業家同友会 事務局長 秋山

会員訪問記

新たな付加価値をつくる！
人も自分も喜びを！

(株)大五堂 深沢文具
代表取締役 深澤 哲郎氏 (富士宮支部)



深澤 哲郎氏

(株)大五堂深沢文具は明治43年に富士宮市西町で創業した老舗の文房具卸販売店です。深沢紙店として紙製品の卸売・小売からスタートして今日に至ります。
深澤哲郎氏は同社の四代目として、昭和46年に誕生、大学卒業後卸問屋で修行した後、平成13年に入社。営業・商談担当として取引

先、官公庁にも足しげく通い業務に取り組み、2年後には32歳で専務になりました。

需要の変化や大手取引先の統廃合と健康問題

文房具、紙類は社会の必需品。ピーク時は社員を10人以上抱えていた時代もありました。とはいえ、

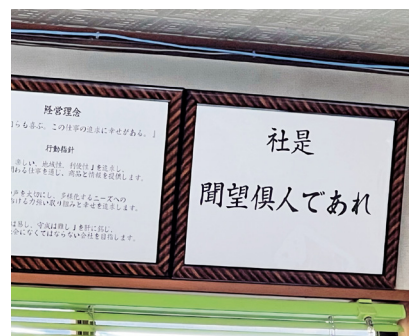
一つ一つの単価は小さいものも多く、膨大な在庫管理が必要になってきます。また、主要取引先の統廃合や廃業などで一気に取引が減少する苦難もありました。IT化に伴うペーパーレス化やネット通販の台頭など、社会環境の変化の影響もあって需要の読みも難しく一筋縄ではいかない苦労の日々がやってきました。

配達や業務の疲労とそうしたストレスからか、深澤氏は体調を壊すこともしばしば。平成25年には疲労もピークで「あの頃が最も悶々とした日々で辛かった」と言います。その翌年には母親の入院と実店舗閉店、平成28年には社長である父が病で療養するなど、次々と健康や家族の課題がやってきました。

そんな深澤氏を見かねて、旧知であった富士宮支部会員の竹内昭八氏(株)タケウチ)や渡邊卓氏(株)丸整)から「本音で経営を学べる会がある」と誘いを受けて平



商品について説明する深澤氏



経営理念

成29年に同友会に入会。これこそが、1人の人間としても、経営者としても、人生を大きく変える分岐点となりました。

例会やグループ会など、赤裸々に語ってくれる先輩や同世代の仲間とのふれあいは良い意味で衝撃だったと言います。お酒が入っても最後はなんだかんだで経営の話になる、そんな仲間の熱さに触れて「悩んでいたのは、俺だけじゃなかった!」と心の霧が晴れ、不思議と体調を壊すことも無くなったと言います。現在では支部役員も引き受けるまでになり、同友会の学びのリーダーシップを発揮する1人になっています。

付加価値の創造を!

前に進むエネルギーを取り戻した深澤氏は、「ただの卸売業ではなく、強みや魅力あふれた独自サービスの創造を!」と、改革に取り組み始めています。デザインソフトも導入して一味違う商品提案や外部連携を行ったり、利用率の減った倉庫を活用した新たな取り組みが出来ないか等、模索と



会社の前にて

実践の真つ最中です。そんな中、今年7月に療養中の父から正式に交代して代表取締役となりました。具体的な施策の実践結果はまだまだ未知数。しかし不安はあれど迷いはありません。「人が喜び、自らも喜ぶ」をテーマに、経営指針も同友会で見直しながら、深澤氏と深沢文具は毎日より良く、明るく前に向かっていきます。

取材・記事：田邊元裕氏
(株)カボス・富士宮支部

(株)大五堂 深沢文具

〒418-0061 富士宮市北町21-10
TEL : 0544-27-2317
URL : <http://www.fukabun.jp>
創業 1910年
社員数 5名
入会年月 2017年5月
事業内容 文具、事務用品、オフィス家具などの卸売業

県経済産業部との意見交換会

3年ぶりに対面での開催 中小企業家の声を県行政に届ける

9月7日(水)

3年ぶりにリアル開催となった意見交換会。静岡県からは増田始己経済産業部長、就業支援局長、商工業局長ら9名、同友会からは正副代表理事をはじめ県政策委員、山本義彦顧問ら13名が参加しました。

冒頭、井上齊代表理事から3年ぶりに対面での開催へのお礼を述べ、「コロナ禍3年目となっていますが、私たち中小企業は



3年ぶりにリアル開催が実現

様々な行政的、政策的支援の下でなんとか切り抜けているのが現状です。今後、コロナ融資の返済が開始すると、廃業・倒産が増えることが懸念されます。同友会の会員企業は、中小企業がなければ日本経済は成り立たない」と自負しています。前向きな中小企業に対する支援を引き続きよろしくお願いします」とのあいさつがあり、増田経済産業部長からは「2019年にコロナ禍が始まってから、経済産業省がまずは事業継続を考え、県としても制度融資にはじまり、資金繰り支援に取り組んできました。複合的な要因に対応していなければいけな



井上代表理事



増田経済産業部長

い状況にあります。また、デジタル化への取り組みも1000件以上へのほりまです。県内企業の支援を通じて県経済の早期回復に取り組みたいです」



中小企業家の生の声を届ける

を行いました。その後、同友会が提出した県への政策要望に関する回答をいただき、意見交換を実施。ゼロゼロ融資の返済開始に向けた現状認識やキャリア教育への取り組み、人口流出問題への県の取り組みなど相互の立場での関わりや情報を共有する時間となりました。

最後に松葉代表理事より「景況調査の結果からも分かる通り、それぞれの企業が抱える課題が多様化、複雑化しています。その中で事業の再構築・本業の再定義、企業の方針を改めていく必要があります。井上代表理事からの話にもあったように、最終的には人の問題に行き着くのではないのでしょうか。それを解決するには条例の基本理念にもある横ぐしをさした関わり合いが重要になってくると思います」とのあいさつがあり閉会となりました。

とのあいさつがありました。続いて、

松下県政策委員長より景況報告の後、青山副代表理事、桑崎副代表理事の2名より、原材料・仕入価格の高騰をテーマに業界動向報告

9月イベントセミナー 社員が家族に誇れる会社を目指して

～同友会で学び、理念をつくって変わった～
9月30日(金) 同友会会議室&ZOOM

オブザーバーや新会員にむけて同友会を知って頂く機会として、また仲間との交流の場として毎月開催しているイントロセミナー。9月は会員・オブザーバー合わせて11名が参加しました。富士宮市若の宮町で電気工事業をおこなう(株)マコト電機 代表取締役の眞邦幸氏が登壇。2009年に代表取締役に就任するも売り上げが伸びずに眠れない日々が続く中、宇佐美健介氏(株)エージェントうさみ・富士宮支部)の紹介で2013年に同友会入会。宇佐美氏から誘われて参加した行事の数々で得た気づきが眞氏のターニングポイントとなります。2019年に静岡で開催された中同協役員研修会で全国の仲間と刺激を受け、経営理念を作成。社員が家族に誇れる会社にするべく、社内制度の見直しや地域貢献に取り組む、今では社員からの社内環境の改善提案も増えたといいます。バズセッションでは「あなたの会社の目的は何ですか」をテーマに、参加者の経営理念について深め合う時間となりました。

今回は10月28日(金)に赤堀芳太郎氏



眞 邦幸氏

(赤武エンジニアリング(株)・沼津支部)が報告します。ぜひお知り合いの経営者にご参加ください。

中小企業憲章・中小企業振興基本条例学習会

「中小企業経営者の稼ぐ力と自己変革力の向上にむけて」

「経営デザインシート」/デジタル化の実践活用 金融機関との価値共創」

講師 森 俊彦氏 (一社) 日本金融人材育成協会・会長

9月28日(水)、財務省東海財務局静岡財務事務所の後援のもと、本学習会を静岡県総合コンベンション施設フラサヴェルテとZOOMにて開催。当日は金融、行政機関を含め、総勢90名を超える参加がありました。

講師には昨年に引き続き、森俊彦氏をお招きしました。森氏には昨年の学習会以降、富士宮・志太・榛南支部でも講演いただき、富士宮・榛南の2支部では、実際にローカルベンチマーク(以下ロカベン)と経営デザインシートの作成に取り組み「実践道場! 森塾」も併せて開催されました。

冒頭、養威頼代表理事より主催者あいさつの後、趣旨説明として穂坂勝彦政策委員より、中小企業家が条例運動に関わる意義や中小企業憲章制定までの歴史、県・各市町に制定された中小企業振興基本条例について触れ、企業経営と地域づくりが密接にかかわっていることを報告しました。

地域における金融機関の役割

冒頭、森氏から台風15号により罹災された皆様にむけたお見舞いの言葉があり、講演が始まりました。

まずふれたのは金融機関の役割についてです。「資金の円滑な供給を担う金融機関。人の体に例えると血管です。血管が目詰まりすると周辺の組織は壊れます。つまり金融機関の仲介機能が中小企業経営に直結します。本日参加の金融機関、行政、支援機関、そして経営者の皆様は、ぜひ本日の内容を「即実践」することで、企業の発展に繋げてほしい」と伝えました。

続いて森氏は資金繰りの重要性について

「資金繰りが上手くまわらないと本業に集中できません。激動の社会変化に適応するために資金繰り表作成が重要です。金融機関の仲介機能とあわせ、企業側の金融リテラシーの向上も重要です」と話しました。

伴走支援型融資の実現が

企業と金融機関の健全性を保つ

金融行政方針には、伴走型支援による金融仲介機能の発揮により地域企業の生産性(営業キャッシュフロー)の改善を図り、地域経済の発展に貢献することが明記されています。森氏は「伴走支援型融資とは『事業性評価に基づく融資と本業支援』を言います。未来への事業展開を理解したうえでの本業支援まで含みます。融資だけで終わるものではありません。経営者側にとってロカベンと経営デザインシートを活用し、経営指針とビジョンを共通言語とし、金融機関へ情報を公開することが重要になります」と話し、「内閣府が推進する経営デザインシ



中小企業発展に尽力される森俊彦氏

「経済産業省のロカベン」は金融機関との共通言語となるツールです。経営者の皆さまから金融機関に働きかけ、活用してほしい」と言います。さらに森氏は「ビジネスモデルには必ず



経営デザインシート

必要運転資金が発生しています。その中から『正常運転資金』を分けることが非常に重要です。必要運転資金には売掛金や不良在庫なども含ま

れています。これらを切り分け、正常運転資金に専用当座貸越をあてることで資金繰りが改善されます。印紙税など手間・コストの削減にも繋がります。正常運転資金を切り出し、短期継続融資にする。特に専用当座貸越は伴走型支援による事業性評価融資の効果です」と話します。「金融仲介機能が発揮されることで、企業の稼ぐ力が向上すれば金融機関の財務改善にも繋がります。結果、双方の健全性が保たれ、地域経済の発展に繋がります」と伴走支援型による融資について伝えました。

対話を重視した伴走支援へ

「地域になくてはならない企業とはどういった企業か。それは『誠実・やる気・キツツと光るものがある』企業です。この3条件がある企業には金融機関も喜んで本業支援の相談に乗ります」と言い、「本年3月から『中小企業伴走支援モデルの再構築』が発表されました。これからは経営者の自走化を促す対話を重視した支援モデルに変わります。そのために必要となるのが企業と金融機関の共通言語となる①ロカベン②経営デザインシート③資金繰り表となります。ロカベンは今の経営状態を把握するツール

であるとともに、数値では見えない企業価値を可視化することができます。経営デザインシートは5年・10年先の自社の在り方を構想するためのツールであり、作成のポイントが未来からバックキャストして考えることです」と話し「この2つのツールは国が推進しており、金融・支援機関との継続的な関係構築に役立ちます。経営者は対話のために自社の価値を可視化し、積極的に金融・支援機関に発信することが重要になります」と伝えました。

最後に森氏から新しく金融行政方針に盛り込まれたデジタル化診断事業を紹介。「中小企業憲章、振興基本条例が羅針盤となり、中小企業、金融機関、支援機関の総力を結集し、地域経済エコシステム経済的な協同関係の好循環のループを実現する国民運動へ発展させてほしい」と参加者へメッセージを伝えました。

講演の後、ロカベン・経営デザインシートを作成する森塾に参加した2名から感想を報告。望月千尋氏(小林造園・富士宮支部)は「作成することで、社員と会社の未来を共有することができた」、野川和三氏(榎野川商店・榛南支部)は「実際に作成をすると難しい部分もあった。しかし、同友会の提唱する経営指針と方向性が同じであり、社長と会社の未来を話すきっかけになった。ますますやってみるのが大切だと感じた」と話しました。

参加いただいた行政や金融機関、支援機関と、地域経済発展に必要な「共通言語」を共有することができた学習会となりました。



書籍: 地域金融の未来
著者: 森俊彦氏

第19期経営指針を創る会 経営理念発表会

自社を見つめ直し本音で語りあう

9月3日(土) 大手町会館(沼津市)
9月4日(日) プラサヴェルデ(沼津市)

第19期経営指針を創る会 経営理念発表会が9月3日(土)・4日(日)に開催され、受講生8名、スタッフ合せて24名が参加しました。

2日間を通して、受講生が経営者としての自分を見つめ直し、同期生やスタッフと本音で語りあい「自分は何のために経営しているのか?」「自社の強みや弱みは何か?」を考える中で生まれた経営理念を発表しました。また今回は創る会第10期修了生の小松寛氏



受講生が経営理念を発表

感想と今後の目標

9月上旬、ついに経営理念を発表する時が来ました。私はこの2日間の合宿を通し

て客観視することの難しさに気付き、そして本当の強みとは1番身近にあると学ぶ機会となりました。合宿以前、後継者という立場の私は変わらぬ日々には漠然とした焦燥感があり、その焦りが私を盲目にさせ会社の強みを見出せませんでした。強みを見つける為には「今会社が続いている理由は何処にあるのか?」を考える必要があると何度も言われていましたが、このような状態では当然思い浮かびませんでした。記入シートも不満点の改善ばかりに終始し、強みを伸ばそうとは考えていませんでした。そうして迎えた合宿1日目、視界が開ける出来事がありました。それは取扱品目を必ず期日に配達する、つまり供給責任を果たすという事は強みではないかという意見でした。他にも様々な角度からご指摘を頂く中で「あたり前が強さになる」事を理解し納得できました。まだまだ付け焼き刃ではありますが「経営者」としてのスタートラインにやっと立てたと思えます。当事者の意識を持ち、残りの回も真剣に取り組んでいきます。



鈴木 達仁氏

鈴木 達仁氏
の回も真剣に取り組んでいきます。

鈴木 達仁氏 (理仁薬品㈱・静岡支部)

榛南支部30周年記念式典・祝賀会

地域を牽引する経営者団体へと成長した30年を振り返る

9月10日(土)

9月10日(土) 榛南支部30周年記念式典・祝賀会が牧之原市資料館と静波サーフスタジアムジャパンで開催され、来賓と会員併せて136名が参加しました。榛南支部(当時、榛原支部)は吉田町、牧之原市、御前崎市に拠点がある会員企業を中心として、1991年に23名で設立。2003年には会員数100名を突破、2019年には最高会勢180名と地域を牽引する経営者団体へと成長しています。

小塚辰巳支部長は冒頭のあいさつで参加者に感謝を述べ、来賓を代表して、杉本基久雄牧之原市長、井林辰憲衆議院議員、箕威頼静岡同友会代表理事の3名からのご祝辞の後、堀池勇第12代支部長が歴代支部長を代表しあいさつしました。その後、牧之原市にゆかりのある田沼意次をテーマに記念講演が行われ、歴史タレントとして活躍する堀口業純氏が登壇。優れた先見性



小塚辰巳榛南支部長



堀池勇第12代支部長



来賓・会員含め100名を越える参加

や創造力、努力で政治の中枢を担った同氏の生き方を学びました。祝賀会では、会歴や業種、企業規模に関わらず同友会の歴史を振り返り、親睦を深めました。

また、祝賀会会場となった静波サーフスタジアム所属のプロサーファー、三輪紘也氏と佐藤李氏の活動を支援するため、出席者の皆さまから沢山の協賛を頂くことが出来ました。後日、協賛金を小塚支部長と発起人の内田和也氏がお渡しに行き、お二人からは感謝の言葉と今後の抱負をいただきました。

10月 18日(火)	若手社員フォローアップ研修 (9:20 静岡県総合社会福祉会館 シズウェル)
19日(水)	沼津例会 (19:00 プラサヴェルデ&ZOOM) 志太例会 (18:30 藤枝市文化センター&ZOOM)
20日(木)	第7回人を生かす経営全国交流会inとくしま (13:00 JRホテルグレメント徳島) 富士例会 (19:00 ロゼシアター&ZOOM) 榛南例会 (19:00 牧之原商工会)
21日(金)	第7回人を生かす経営全国交流会inとくしま (9:00 JRホテルグレメント徳島)
22日(土)	富士宮支部40周年記念式典・記念講演 (13:00 富士宮市民文化会館)
24日(月)	三島例会 (19:00 未定)
25日(火)	第9回全県経営フォーラム実行委員会 (19:00 ZOOM) 県例会企画委員会 (18:30 ZOOM)
26日(水)	県広報情報化委員会主催勉強会 (19:00 同友会事務局&ZOOM)
27日(木)	県理事会 (15:00 同友会事務局&ZOOM) 県組織増強委員会 (17:15 同友会事務局&ZOOM)

28日(金)	イントロセミナー (19:00 同友会事務局&ZOOM) 第19期経営指針を創る会⑨ (19:00 ペガサート&ZOOM)
11月 1日(火)	県広報情報化委員会 (19:00 同友会事務局&ZOOM)
4日(金)	正副代表理事会 (15:00 同友会事務局&ZOOM)
8日(火)	静岡例会 (19:00 ペガサート&ZOOM)
9日(水)	御殿場例会 (19:00 エピスクエア&ZOOM)
10日(木)	第19期経営指針を創る会⑩ (19:00 同友会事務局&ZOOM) 浜松例会 (19:00 ザザシティ浜松中央館 &ZOOM)

《 あなたのスケジュールノートに
必要事項をご記入ください 》



新会員のご紹介 (敬称略) 会員数 1052 名

氏名	社名・事業	所属支部	紹介者
ますだ ともかず 増田 智和	増田樹脂化学工業(株) プラスチック製品製造業 (医療機具部品、食品容器用注ぎロキャップ、ユニバーサルシャ ワーフック・箸などプラスチック製品の製造)	志太	松葉 秀介

※新会員の写真はe.doyu「ユーザー名簿」に掲載します。e.doyuからのご確認をお願い致します。

第50回青年経営者全国交流会in兵庫 参加者感想

「苦しみや弱さも見せる自己開示が自分の必要な一歩」

9月15日(木)、16日(金)に神戸ポートピアホテルをメイン会場に中同協主催 第50回青年経営者全国交流会(以下、青全交)が開催され、静岡から23名が参加しました。参加した渡辺淳司氏(㈱ウェックス・伊東支部)より感想を頂いたのでご紹介します!



渡辺 淳司氏

まだ同友会入会2年目で若輩者の自分ですが、思い切って兵庫県で行われた青全交に参加しました。全県経営フォーラム実行委員である第4分科会のメンバーが背中を押してくれたことがきっかけです。全国から2,200人を超える経営者が集まり、20もの分科会に分かれてそれぞれの信念を語り、学び合う場。良き経営者とはこれほどまでに自分を開示するのかと深い衝撃と気付きを得ました。

思えば3年前に事業継承して経営者になってから一部の社員とは隔たりを感じていました。どこか表面的な部分だけを取り繕って、自分を誇張して見せようとしていた部分があったと思います。経験した数多くの失敗や苦しみは伏せながらも、それでも前へ前へと向かわせる自分が信頼できる存在ではなかったのだと。

苦しみや弱さも腹の底の底まで見せる、自己開示が自分の必要な一歩です。学んだことは実践あるのみ。必ず行動に反映して状況を変え、来年広島で開催する青全交にまた参加すると心に誓いました。貴重な機会を頂いた全県経営フォーラム第4分科会のメンバーに深く感謝します。